会計業務のテレワーク化におけるリスクマネジメント

千葉商科大学

千葉　啓司

本報告の目的

- 会計業務のテレワーク化をリスクマネジメントの観点から分析する枠組みの構築を試みる。
  - 分析の枠組みとその検討
  - クラウド化に伴うリスク

1. テレワーク分析の枠組みの必要性

- これまでの研究では、テレワークあるいはリモートワークと言われる業務に関わるリスクとその対策について、実際のコンサルティングなどの経験から記述するものが多かった。
- そして、テレワークを導入する際、あるいは導入後の運用にあたって、より適切なリスク対応策を模索する研究な意思は啓蒙的な内容のものが多かった。
- そこでは実務的な必要性に応じた記述は多くみられるが、総合的な研究体系を示す枠組みはなく、先行研究の位置づけとその後の追加的研究の意義を適切に評価することが困難である。
- ここに、テレワーク に関するリスクマネジメントを研究するための枠組みを提示する必要性がある。

2. John Campbell and Craig MacDonald（2007）の枠組み

２．１　動機付け要素

・企業固有の要因

・業界固有の要因

・従業員の選好要因

Campbell&Macdonald(2007)

・人材の確保・育成

・業務プロセスの革新

・事業運営コストの削減

・BCP体制整備

船山、小澤(2020)

企業固有の要因
　　業務プロセスの革新
　　事業運営コストの削減
　　BCP体制整備
・業界固有の要因

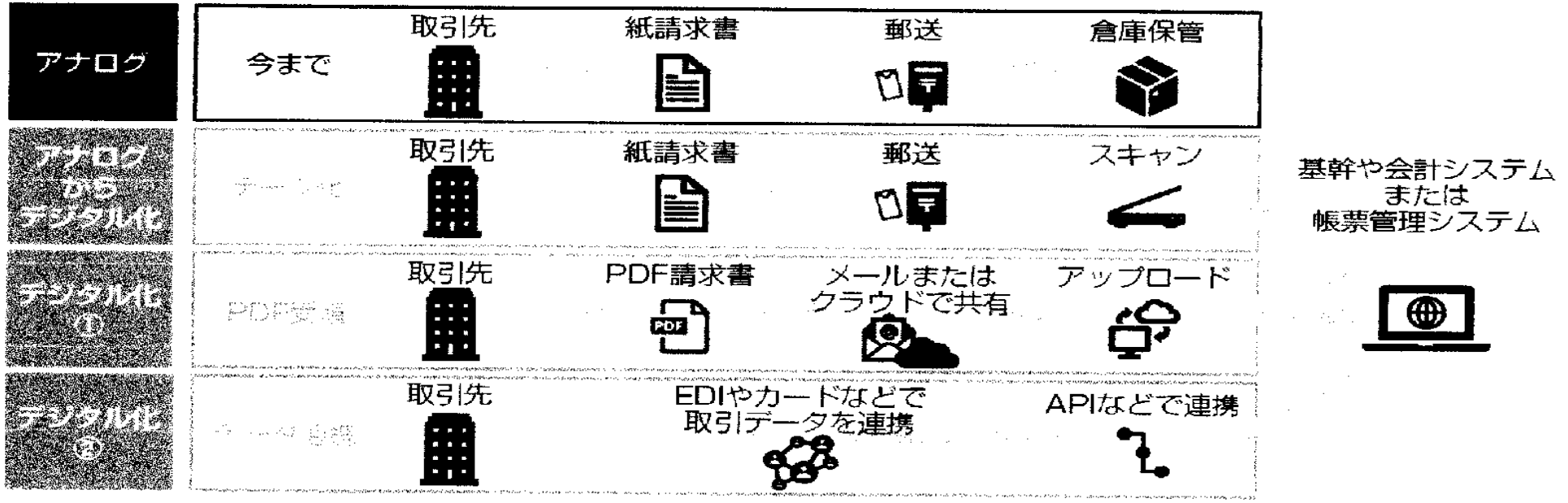
・従業員の選好要因
　　人材の確保・育成

２．１．１　テレワーク動機付けにおける問題点

- 2017年に公表された総務省「ICT利活用と社会的課題解決に関する調査研究」では、国内企業のアンケート結果では、テレワーク の対象としているあるいは考えている業務として、「経理・会計」を上げた企業が21．4％と、トップになっている。
- しかし2020年に日本CFO協会が実施したアンケート調査でテレワークの状況に満足している企業は32％にとどまっている。
- こうした評価の要因の一つが、証憑の問題である。

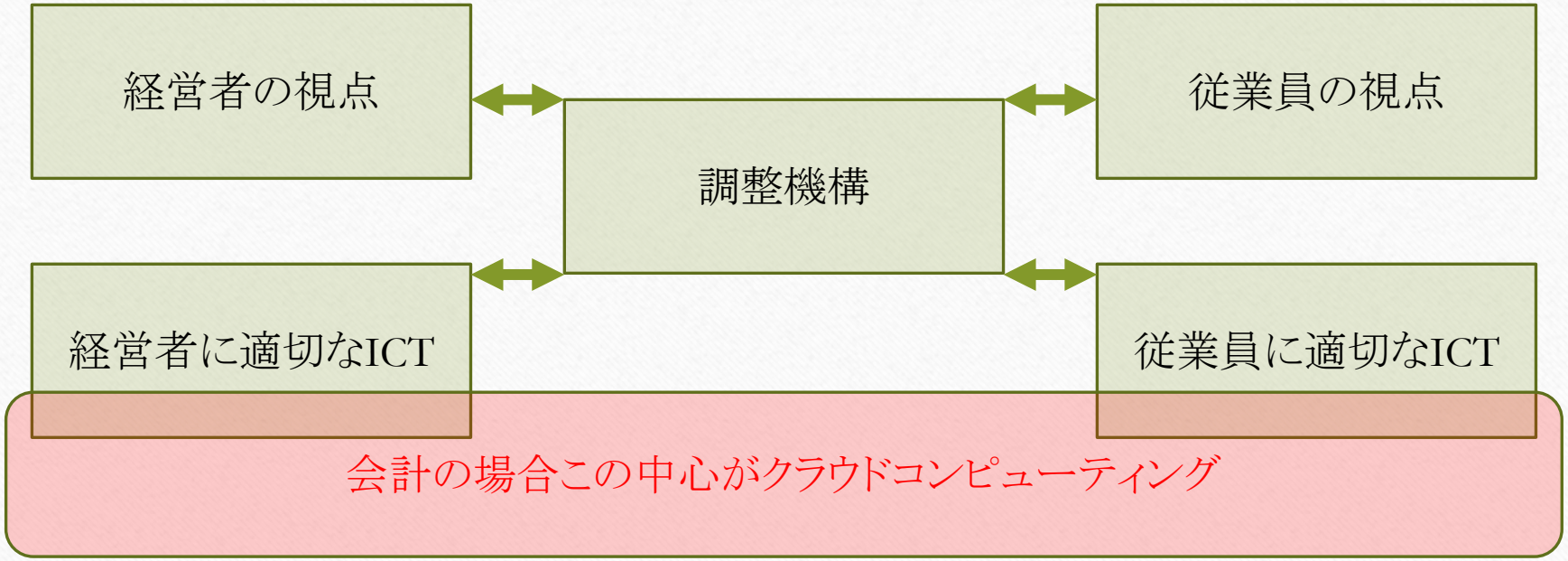
2．1．2　証憑の電子化

〔図表２〕請求書・領収書のデジタル化の方法



船山、小沢（2020）

２．２　テレワークプロセス



Campbell&Macdonald(2007)を参照に赤色部分を追加

２．２．１　クラウドコンピューティング

- NISTの定義（National Institute of Standards and Technology2011)(独立行政法人情報処理推進機構訳）
  - クラウドコンピューティングは、共用の構成可能なコンピューティングリソース（ネットワーク、サーバー、ストレージ、アプリケーション、サービス）の集積に、どこからでも、簡便に、必要に応じて、ネットワーク経由でアクセスすることを可能とするモデルであり、最小限の利用手続きまたはサービスプロバイダとのやりとりで速やかに割当てられ提供されるものである。
- リスクマネジメントの中心はこのクラウドコンピューティングになってくる。

２．２．２　クラウド特有のリスク要因の分類

- 機密性
  - 仮想化技術関連
  - アプリケーション関連
  - データストレージ関連
- 完全性
  - 仮想化技術関連
  - アプリケーション関連
  - データストレージ関連
- 可用性
  - 仮想化技術関連
  - アプリケーション関連
  - ネットワーク関連
  - マルチレベル関連

De Donno ,Giaretta , Dragoni , Bucchiarone , Mazzara(2019)

機密性

- 仮想化技術関連：Virtual Machine 関係など
  - Almorsy , Grundy , Muller (2010)、船山真登、小澤諭（2020）
- アプリケーション関連：PaaS , SaaS など
  - 薩摩貴人（2020）、原幹（2018）
- データストレージ関係：アウトソーシングに関わるデータ保持の問題など
  - 薩摩貴人（2020）、

完全性

- 仮想化技術関連：
  - 船山真登、小澤諭（2020）
- アプリケーション関連：不正アクセス、改竄など
  - Rosati , Lynn(2018)、薩摩貴人（2020）
- データストレージ関係：アウトソーシングに関わるデータ保持の問題など
  - Rosati , Lynn(2018)、薩摩貴人（2020）

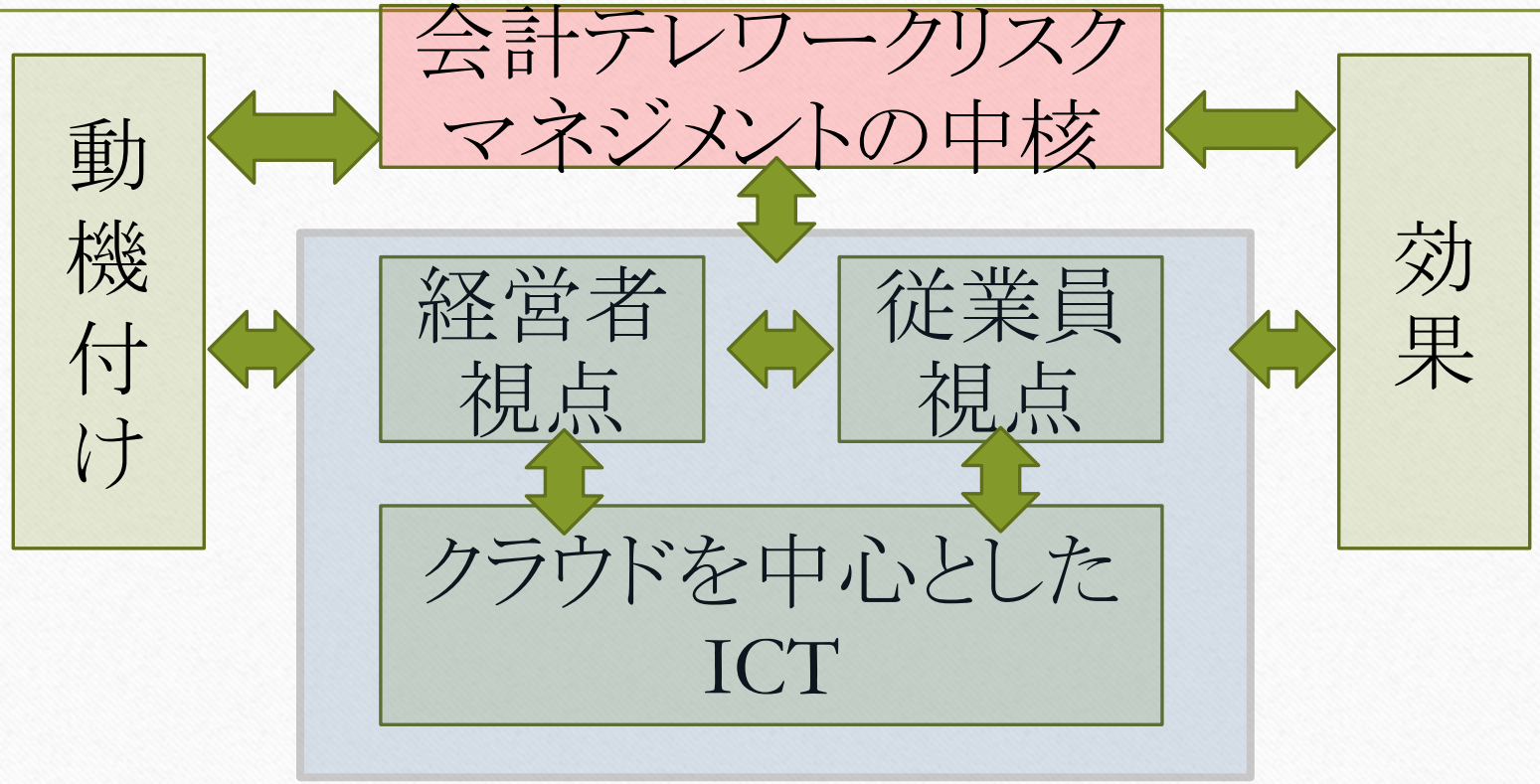
可用性

- 仮想化技術関連：Virtual Machine 関係など
  - 船山真登、小澤諭（2020）
- アプリケーション関連：PaaS , SaaS など
  - Rosati , Lynn(2018)、薩摩貴人（2020）、
- ネットワーク関連：DoS攻撃対策など
  - Rosati , Lynn(2018)、薩摩貴人（2020）
- マルチレベル関連：EDoS攻撃対策など

２．３　効果

- 効果の側面は、Campbell , MacDonaldによれば、従業員の満足、生活の充実が強調される。
- しかし、導入の動機付けの面では、企業マネジメントの側面が重要となるので、その効果についても企業マネジメントの面からの評価が必要になる。
- 従業員に対する幅広い調査は未だ日本では行われていないが、企業マネジメントの面からは2020年に日本CFO協会がアンケート調査を行っている。これはテレワーク 効果に関する有意義な調査といえる。

まとめ



参考文献

- 船山真登、小澤諭：「経理部のテレワークをどう導入・運用していくか」『企業会計』（2020）Vol.72 No.7
- 原幹：「経理部門でテレワークを導入する勘所」『経理情報』（2018）10．20．
- 松田千恵子：「アフターコロナの経理・財務」『企業会計』（2020）Vol.72 No.7
- 薩摩貴人：「リモートワークにおけるセキュリティリスクと対策」『経理情報』（2020）8．10．
- 総務省：『テレワークセキュリティガイドライン第4版』
- 総務省：『中小企業等担当者向けテレワークセキュリティの手引き』（2020）

参考文献

- 高橋賢:「コロナ禍が浮き彫りにした管理会計の課題」『企業会計』(2020)Vol.72 No.8
- 武田彩香:「テレワーク導入・運用時の労務管理の留意点」『企業会計』(2019)Vol.71 No.5
- 谷口宏:「経理・財務の現場は今」『企業会計』(2020)Vol.72 No.6
- 吉見憲二、藤田宣治:通勤困難な状況下でのテレワーク実施を可能とする要因に関する一考察」『総務省情報通信政策レビュー第12号』(2016)

参考文献

- Campbell, John, MacDonald, Craig., "Defining Conceptual Framework for Telework Research", (2007) *18th Australasian Conference on Information System*
- De Deno et.al., "Cyber Storms Come from Clouds:Security of Cloud Computing in the IoT Era., *Future Internet*(2019) 11,127
- Mell,Peter , Grance, Timothy , "The NIST Definition of Cloud Computing"(2007)
- Rosati,Pierangelo , Lynn, Theo., "challenges to technology implementation" in *Routledge Companion to Accounting Information Systems edited by Quinn, Martin and Strauss, Erik*(2018)